OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ヨーロッパ・印度紀行
Author(s)	川越, 慶三
Citation	大阪公衆衛生. 1959, 5, p. 22-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84714
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ヨーロッパ・印度紀行

川越慶三

昨年8月頃であったか London にある国際家族計画連盟（ＩＰＰＦ）から1959年2月印度 New Delhi で行われる国際会議に出席しないかという招待状が大阪市に来たので，これに出席すると共に，ヨーロッパの公衆衛生関係の現況視察を命ぜられて1月23日東京出発，羽田→Anchorage→Copenhagen→Düsseldorf→Heidelberg→London—Paris—Zürich—Bern—Roma—Delhi—Banares—Bombay—Manila—東京3月6日帰着，と慌しい海外旅行を経験した．以下少しく所感を述べてみよう．

1．Düsseldorf　市立保健所

West Germany は Baden-Württemberg (65) Bayern (133) Hessen (45) Niedersachsen (69) Nordrhein-Westfalen (93) Rheinland-pflatz (39) Schleswig-Holstein (20)　の7州と Berlin (13) Bremen (4) Hamburg (6) Saar (9) の特別区（又は市）とから成っており，1955年において夫々括弧内に示す数の保健所が作られている．合計496ヶ所であるが今はもう少し増加している筈である．保健所には日本と同様，州立と市立とあり，その業務内容や運営の仕方も非常にマチマチであるらしい．保健所の勤務医師は全数約5,000名，常勤と非常勤の割合は3:7というから1ヶ所凡そ10人，常勤医師は3名位ということになる．

Düsseldorf 市立保健所は Zentrale Gesundheitsamt と13の Hauptstelle,11 の Unterstelle とから成っている．医師33（内歯科医6）保健婦(Fürsorgerin) 看護婦（Arzthelferin），計78，事務職員130で人口67，8万の公衆衛生を担当しているのだから，25,000人に一人の医師，8,000人に一人の介助婦ということになる．

中央保健所は Kasernenstrasse の allgemeine Ortskrankenkasse（健康保険組合）の建物の4階5階になっており，所長は Dr.D.Braun 副所長は Dr.F. Schendel であった．此処には医員が他に3名いるが所長の話では終戦直後は同市の保健所全部で医師が8人であったが今はやっと33人になったという．clinic は結核，小児，母性，位であった．Hauptstelle, Unterstelle は分業的になっており，精神病センターとなって入院及び在宅の精神病患者全部の登録台帳を持ち，在宅患者の管理に重点を置いて精神衛生を行っているもの．性病センターとなって500人の unter der Überwochung（監視下にある）娼婦の毎週一回の検診と3ヶ月1回の血液検査を行っているもの（ここの所長は1958年中に梅毒3，淋病40，軟性下疳 0，鼠けい淋巴肉芽腫1しか見つからなかったから，この500人は遊んでも大丈夫だが，ヤミの女が2,500人居ると見込んでいるのでそちらの方は責任は持てないと云った），小学校附属の学校保健支所というべきもの，等が特徴的であった．

2．Manila 市立保健所

Manila 市の City Health Officer（日本の衛生局長に当るもの）は日本にも来朝された事のある Dr. M.C.Icasiano であったが，突然訪ねて行った私に非常に好意を示し医師の某課長の車で保健所を案内させてくれた．

マニラ市の人口は120万であるが，全市を四区域に分けて夫々に一つの Main Health Centre と6～9ヶ所の Branch H.C を置いている．保健所はほとんど有名人，富豪の寄附によるもので Quezon Memorial H.C という調子である．

その業務内容はアメリカの指導によるものであるからほとんど日本と同様であり，保健婦数は丁度人口一万に一人に当っているが，特徴的なことは，

イ）ＷＨＯとＵＮＩＣＥＦの援助で作った未熟児保育施設を二階に持っている保健所が一つあった．大体50～60坪位で見学者からは硝子張りで完全隔離式になっており，母乳で育てる事を自慢にしているので母親も泊れるようになっている．従って10名位の収容力と思われた．

ロ）大部分の支所に Obstetrics clinic を持っていること．といっても病院の産科の形態ではなく，日本の開業助産婦を公営にしたようなもので，管内妊婦の登録を取っておき，24時間勤務の助産婦を常置して，家庭分娩の介助に駈けつけるのである．マニラ市には正式の助産婦会会員は現在88名で他に400名位のモグ

リ助産婦があるらしい．現在の Phillippine では家族計画（産児制限）は全く問題になっておらず生めよ殖やせよと国力伸長を計っているようである．

3．家族計画国際会議について

過去に London, Stockholm, Tokyo 等で行われ今度は第6回ということでＩＰＰＦが主催する．

参加国は ＵＳＡ，ＵＫ，W.Germany, Italy, India, Pakistan, Ceylon, Sweden, Holland, Australia, South Africa, Denmark, Egypt, Singapore, Hongkong, Puerto-Rico, Jamaica, Czechoslovakia, Japan, であった．

今までの会長は Mrs. Margaret Sanger であったが老令で辞任し，Sweden の Mrs. Elise Ottesen Jensen が会長に選ばれた．会議の議長は主催国インドの Family Planning Association 会長である Lady S. D. Rama Rao で印度人の女ながら，Sir に匹敵する Lady の称号を持っている．

家族計画という言葉についてであるが，Sanger は Birth Control と云ったのであるが，その後，医学的には，Contraception（避妊），Fertility Contror（受胎調節）社会的には Family Planning 或は Planned Parenthood と色々に呼んでいる．

国際会議は２月14日～21日の8日間行われ，第1日は開会式，第２～６日本会議，第７日分科会，第８日は Resolutions（決議）と閉会式の順序に行われた．

第1日には Prime Minister Nehru の挨拶があったが，之が日本のおエラ方の挨拶とは異って，単に儀礼的な挨拶ではなしに家族計画について非常に具体的な意見を述べるので驚いた．此処に集っておられる東南アジア以外の文明諸国の代表達は，内心では，アジアにおける果てしない人口増加は遂には西欧人口を凌駕し，折角，貴方がたが作り上げた高度の生活水準を全世界的に引下げてしまいはしないか，と懸念して，産児制限を唱導しておられるのであろう．もっともであるとヤユしたり，印度人代表或は医師保健婦等の参会者に対しては，まだまだ印度国内では避妊法の事を話したりすると聴衆の笑いの的になったり，或は恥かしがって近寄って来なかったりするであろう．と慰めたり，中々長い面白い挨拶であった．

日本代表は北岡寿逸氏（国学院大学教授）が“How Japan halved her birth-rate in ten years”と題して日本の茲10年間の努力を述べ，私は“On fertility control for poor people in Osaka“と題して，大阪市における貧困者に対しての特別普及事業の現況とその困難を，及び打開策について約15分の Speech をした．（実際は当日朝打ち直った原稿から one sentence 脱落していて壇上で大汗をかいたのであるが）興味のあった発表を２～３拾うと，S. N. Agarwala（Delhi 人口問題研究所）は，デリーの F. P. Center に初めて来所する既婚婦人の年令は27才で，その時はもう4人の子持ちであり全く手遅れである．印席人の平均家族構成は８人であり，子供5～6人が通念となっている．（大阪市の平均家族構成は4.5人）S. Chandrasekhar（Madras 人口問題研究所）は Madras 州では Puerto-Rico にならい，州法を以って，３人以上子持ちの夫婦に対し，Sterilization（断種手術）殊に男子の Vasectomy を唱導している．そして被手術者に 25Rs（1Rupee＝¥75.60），勧奨者に2Rs. の奨励金を出している．第四次５ヶ年計画の終り（1970年頃）には出生率を欧米先進国なみに引下げ得る見込みである．

R. Snider（Harvard 大学）はカリブ海の島国 Jamaicaの1800人の婦人の調査で産児希望数は，50%は3人以下，18%は5人以上，3%は As many as God sends だといって笑わした．

B. L. Raima（インド衛生省家族計画担当官）は全印度に497（郡部）329（市部）計826ヶ所の Family Planning Clinic を現在開いている．Bonbey と Mysore には F. P. Center がある．断種手術は1956年6,815件 1958年 11,320件であった．（日本では毎年約^{4}4,500件）

経口避妊薬の事はこの会議の一つの Topic となったのであるが，子宮内胎児を新生物と見なして抗腫瘍物質（Antimetabolite）を与えて吸収させる実験や，男子精虫の発育抑制剤，精虫の運動を抑制する抗酵素剤，ホルモン剤，等々一連の発表が行われて話題を賑わした．尚，私が Delhi から Banares への汽車旅行中に一人の国会議員から，“日本のような工業の進んだアジアの一流国が，人口制限を熱心にやっているのは諒解に苦しむ．これは米国，西欧先進国の謀略ではないか，一体日本は自分の自由な意志で家族計画を進めているのか”と議論を持ちかけられた事と，“日本が出生率減少に成功したのは，人工妊娠中絶を legal に認めた事に原因するのであって，特に受胎調節の普及を熱心にうまくやった為ではなかろう”という非難を会議の内外を問わず多くの会議出席者その他から聞かされ，この弁明に汗を流した事は強く印象に残った．（大阪市衛生局医務課長）